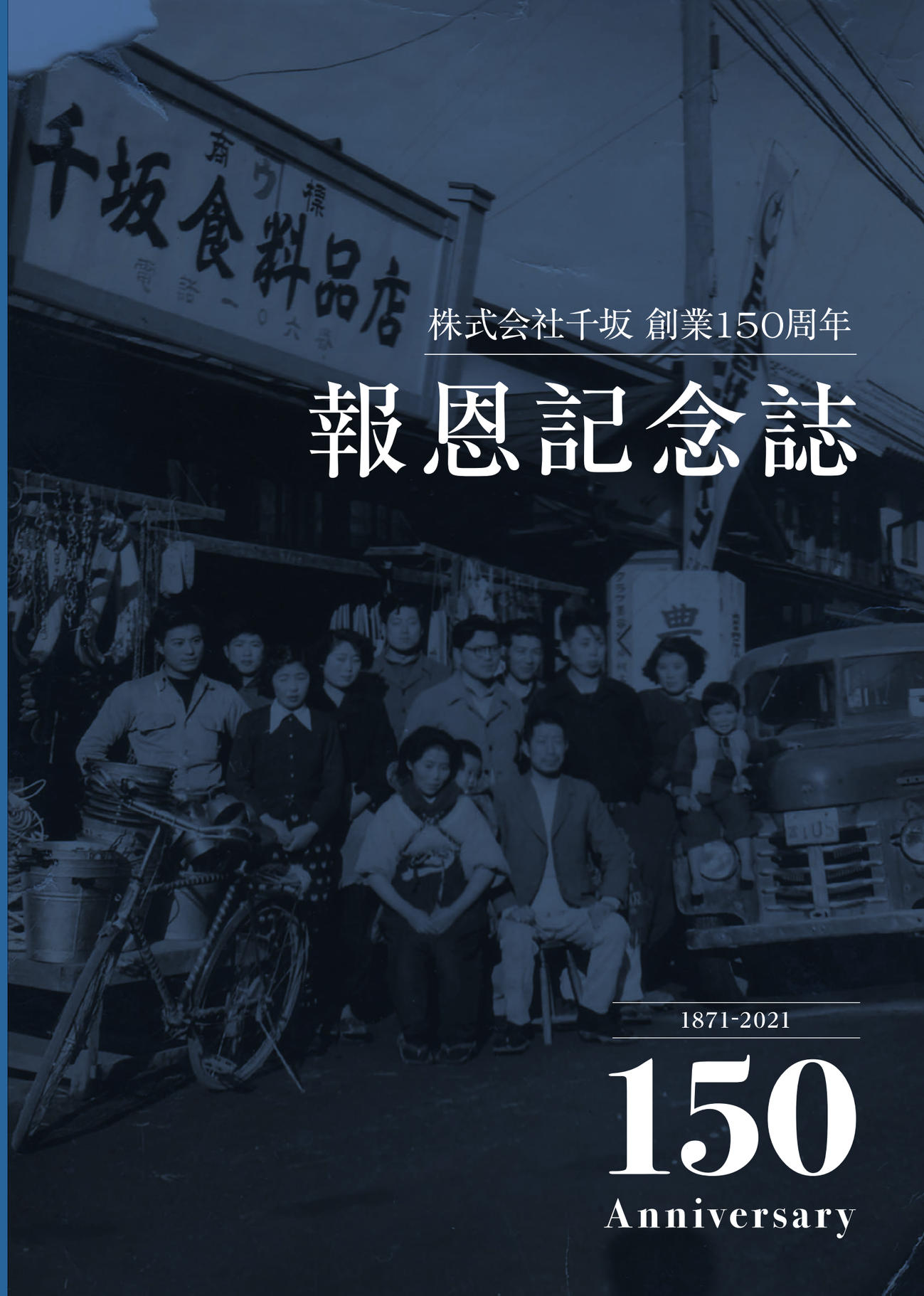
1871-2021

150

Anniversary

株式会社千坂



株式会社千坂 創業150周年

報恩記念誌

1871-2021

150

Anniversary

1871

株式会社千坂
代表取締役社長
千坂 剛久

ごあいさつ

日頃より株式会社千坂へのご愛顧ご協力を賜りまして誠にありがとうございます。
おかげ様で弊社は2021年創業150周年を迎えることができました。
150年の歴史を重ねる事が出来ましたことはひとえにお得意先様・仕入先様・地域の皆様の長年にわたるお引き立ての賜物であると感謝し心から御礼申し上げます。
また、震災の中ともに苦労をした従業員、並びに基礎を築いてこられた先達の方々に対して感謝と敬意を表します。
150年を振り返りますと、何度も厳しい状況が有りましたがここまで来れたのは、4代目の「利益を得んとすれば相手に利益を与えるべし」という互恵の考え方が社会より今まで生き残ることを許され、支えられてきたからと思っております。
今私たちはそれを理念の中心にすえ、地域の為なくてはならない企業
「地域流通創造企業®」の実現をめざして進んでおります。
これからもこの旗をかざし次なる時代に向けて進んで参ります。
何卒今後とも変わらぬご支援とご愛顧を賜ります様心からお願い申し上げます。

令和4年3月3日

2021

50年に一度の流通大変革の中でもがきながら「この会社は何の為にあるのか」を必死に考えていた2011年（平成23年）3月11日、東日本大震災でした。

石巻と塩釜では甚大な被害をうけましたが社員の必死の復旧活動・仕入先・得意先よりの心暖まる応援であの難局を乗り越えることができました。

その時あれだけ探しあぐねていた我が社の存在意義が明確になりました。

私達の仕事は単に卸という商品を卸すということだけではなく、地域のライフラインを担い地域を支える仕事なのだ。この使命が明確になった時、「地域流通創造企業®」という言葉がまさに天から降りて来ました。その言葉を元に理念・ミッションを創りそれを実現するために人間力の向上が大事と人間力向上の勉強会をスタートし

「うまい　ありがたいがこだまする社会」

をもとめて活動しております。

初代千坂源内は上杉家に仕えておりました。

1868年、戊辰戦争がおこり新潟長岡にて壮絶な戦いを行い一族の中にも多数の死者が出たこともあり、1871年、廃藩置県の発令をきっかけに源内・卯七親子は米沢を離れ、宮城県涌谷町本町五番地に居をかまえました。

先ず始めた仕事は当時宮城には無かった山形名産の麩の製造販売でしたが、全てが初めての仕事は大変だった様です。

その後、4代目晋平は志を立て

「利益を得んとすれば相手に利益を与えるべし
信用を得んとすれば信条を貫くべし」

という社訓をかかげ戦時中は麩の製造技術を生かし仙台陸軍へ乾パンを納め商売を継続しました。

そんな戦中戦後と激動の中、子供12人をつくり一家の繁栄が会社の基礎となりました。

戦後は日本中の食糧難解消に尽力したいと食品だけでなく種や農耕用具販売も始め、その後、昭和22年に食料品を扱う卸部を設立、昭和26年には株式会社になり現在は71期になりました。

その頃5代目卯七は昭和17年太平洋戦争で中国へ陸軍衛生兵として配属され、昭和20年に敗戦するも配属された陸軍病院の関係者は、混乱の中での帰国は危険と見送り、取り残された女性を保護し部隊を整え医療体制の整っていない中国共産党の後方野外病院の運営を受けました。

そこで共産党と国民党と戦争、朝鮮戦争と三つの戦火をくぐり抜け、敗戦から7年後、約10年間の長い期間の苦労を終え、無事日本に帰国しました。

戦中つちかった粘り強さで男兄弟9人をまとめ、力を合わせ東北で初となるC&Cシステムの問屋をつくり、昭和44年古川そして石巻と業態を変え、昭和50年涌谷配送センター、昭和58年仙台支店、61年事務所を新築、その後気仙沼・大河原と商売を拡大しました。

沿革

創業から現在にいたるまでの歴史を振り返りながら、皆様への感謝の思いをこれからの報恩の行動にかえさせていただきます。

1871（明治4年）
千坂源内が涌谷町本町五番地に食糧小売業を開業。
その後、麩の製造卸を主体に営業。

1947（昭和22年）
食料品卸部を開設。（本町七番地）

1951（昭和26年）
株式会社に改組。初代社長に千坂晋平就任。

1954（昭和29年）
佐沼支店開設。

晋平夫婦 12人の子どもと

食料品卸部開設

株式会社に改組

佐沼支店開設

東北初C&C開設

第一回展示会 小学校講堂

涌谷物流センター落成式

東日本大震災にて

1969（昭和44年）
古川支店開設。古川支店を東北で初の
C&C（キャッシュ・アンド・キャリー）方式の問屋とする。

1975（昭和50年）
本社配送センター現在地に新築。

1983（昭和58年）
仙台支店開設。

1986（昭和61年）
本社事務所新築。

1987（昭和62年）
気仙沼支店開設。
本社コンピューター化。

1994（平成6年）
大河原支店開設。

2011（平成23年）
石巻支店が震災により閉店（3月）。

2012（平成24年）
菓子「味じまん」の製造開始（1月）。

各支店をセンター化へ

東北初の「C&C方式」

昭和40年頃になると、順調に業績が伸び、更なる拡大の為、4代目晋平と夘七は米国で飛躍的に成長していた新しい卸「C&C（キャッシュ・アンド・キャリー）方式」の東北初導入を決意。品物を現金で購入いただき、そのかわりに価格を安く販売したところ、小売店様から支持され、古川・佐沼・石巻のC&C化と、塩釜・仙台・気仙沼・大河原の新店を出店しました。その後、怒涛のような流通の大変革の中、時代に合わせ新しい顧客に寄り添う為、新営業体制の構築（営業チーム集中化による質の向上）・効率的物流をめざしての支店のセンター化にて現在に至りました。

御礼のご挨拶

「営業力」よりも「人間力」を大切に。
どんな時も「流通」というインフラを止めない決意。

日頃よりご愛顧いただいております皆様、当社にご協力くださっているご関係者の皆様、誠にありがとうございます。無事に創業150周年を迎えられましたことを、心より感謝申し上げます。

「株式会社千坂」は、食料品・菓子総合卸売会社として、地域に根ざした経営を表すビジョン「地域流通創造企業®」を掲げるだけでなく、地域の健康課題に即した取り組みなど特に優良な健康経営を実践している企業を顕彰する制度「健康経営優良法人」にも認定いただいております。名実ともに地域貢献を実践する会社として、さらなる前進を目指しているところでございます。

当社の大きな転換期は、1969年（昭和44年）、C&C（キャッシュ・アンド・キャリー）方式、いわゆる現金で購入後持ち帰るという形式のセンターを開設した頃でした。当時はまだ珍しい方式で、東北初の試みだっと記録されています。実はC&C方式導入の前は、従来通りの売掛金が膨らみ、黒字倒産してしまうんじゃないかというところまで追い込まれた時期がありました。そこで、現金で購入いただくC&C方式を導入したところ、現金で資金を確保できるようになり、小売店様とのお仕事も行えるようになりました。

少しずつではありますが、社内の変革も進んできております。以前は先先代が遺した社訓「利益を得んとすれば相手に利益を与えるべし」を守るのみでしたが、20年程前に問屋無用論が再燃し、「私たちの仕事とは何だろう？」「この会社は何のためにある？」と悩んだ時期がありました。そこから、改めて自社の価値を見つめ直し、理念づくりに取り組み、出来上がりました。卸売業だからこそまず「造り手」の物の考え方を理解し、そして顧客の為・地域の為に何ができるのか。そこで理念からミッション（使命）を明文化しました。「顧客の価値向上をめざす企業となり『うまい、ありがたい』がこだまする社会をつくる。」このミッションの実現を目指し、営業活動を行っております。また、全ては「人間力」。互いの研鑽を通して自己の成長をめざす環境を整えることを大事に考えました。

仕事というのは、社会人にとって人生の半分を占めるものだと考えております。だからこそ、職場を「ただ働くだけの場所」ではなく、「人生をより豊かにできる場所」にしてもらいたいという思いで、現在は定期的に社内勉強会を開催しております。勉強会を始める前は「きっと社員に反対されるだろうな」「会社を辞めると言われたらどうしよう」と内心不安でしたが、実際に勉強会を行ってみると、「社内の協調性が上がった」「視野が広がった」「コミュニケーション能力が高まり、業務がスムーズになった」「自分が成長できていることを感じて嬉しい」といった声が聞かれるようになりました。今では社員の感想を読むたび、「まっすぐ成長しているなぁ。自分は負けているかも、もっと頑張らなくては」と焦るほどです。これからも、会社の規模や設備面で最大・最新を目指す会社ではなく、人間力を高める会社をつくっていきたいと考えております。

私たちは東日本大震災の時、流通を担う者の重要性を痛感しました。どういった順番で、どういった商品が求められるかという流れも、東日本大震災で学びました。あの時の教訓が現在、新型コロナウイルスへの対応で生きています。緊急事態宣言、休校など、事態に合わせて求められるだろう商品を早めに仕入れることで、なるべく欠品させず、消費者の方に必要な商品をお届けできていると自負しております。私たちはインフラを担っている、どんなことがあっても仕事を止めてはいけない。この決意のもと、エッセンシャルワーカーとして、これからも「買う人が欲しいと思う商品」をお届けできるように頑張っていきたいと思います。

経営理念

一、私たちは、造り手とお客様の心を
感謝の輪でつなぐ「地域流通創造企業®」を目指します。

一、私たちは、「うまい、ありがたい」がこだまする
快適社会づくりに貢献いたします。

一、私たちは、互いの研鑽を通して
自己の成長をめざす喜働の職場を作ります。

現事業のご案内

取扱い商品

当社の取り扱い品目は加工食品・菓子・雑貨がメインとなっており、菓子製造も行っています。
流通で扱う商品は国内外を問わず、種類やバランスを検討しながら、自分たちで「いいもの」を見極めて仕入れております。

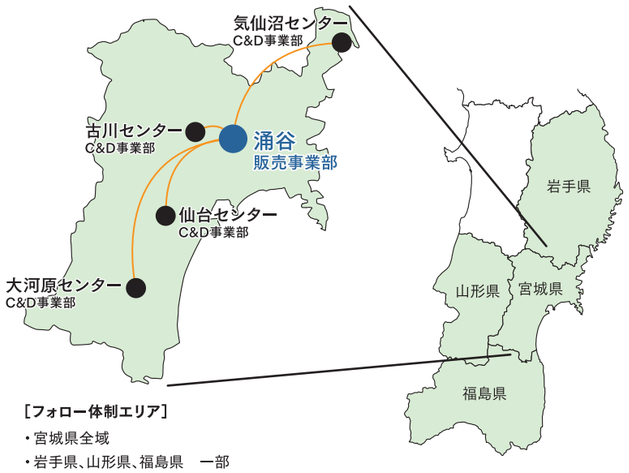
加工食品

菓子

味じまん製菓

物流網

涌谷本社には東北トップクラスの物流倉庫・配送機能を備え、宮城県全域、
岩手県・山形県・福島県の一部をフォローする物流拠点となっています。



［フォロー体制エリア］
・宮城県全域
・岩手県、山形県、福島県　一部

事業所

●本社・営業本部・涌谷物流センター

〒987-0132
宮城県遠田郡涌谷町字蔵人沖名169
TEL:0229-43-2121
FAX:0229-43-2696

古川センター

〒989-6254
宮城県大崎市古川狐塚字西田17
TEL:0229-28-2226
FAX:0229-28-2227

仙台センター

〒983-0035
宮城県仙台市宮城野区日の出町3-7-17
TEL:022-284-9415
FAX:022-284-9419

気仙沼センター

〒988-0063
宮城県気仙沼市字四反田95-1
TEL:0226-23-7600
FAX:0226-23-7810

大河原センター

〒989-1222
宮城県柴田郡大河原町字南平1-1
TEL:0224-52-6020
FAX:0224-52-6163

関連会社

- **味じまん製菓**
  G・トレード株式会社
- **株式会社ツーバイツー企画**

株式会社千坂

資本金	9,000万円
年商	63億6千万円（2021年）
従業員	126名（2022年2月現在）
取引銀行	七十七銀行 涌谷支店 仙台銀行 涌谷支店
役員	代表取締役社長 千坂剛久